

科学 MONDAY

「科学カフェ京都」で話す
田中准教授。「いろいろな
と異なる者のやり取りを楽し
んで」と語る



サイエンスカフェは、英国・リーズで1998年、科学番組を制作していた元テレビプロデューサーが始めたとされる。BSE（牛海绵状脑症）や遺伝子組み換え食品などの問題によって失われた科学者への市民の信頼を回復し、科学を生活に根付かせるための試みだった。その後、欧州から世界中に広まった。

日本では、市民と科学者がともに参加する「双方向」の重要性が

欧洲から世界へ

初めて示された2004年の科学技術白書で、英国の取り組みが紹介され、各地に広まった。主催者は大学や研究機関、民間団体、博物館

など様々だ。テーマも、食や健康にまつわる身近な話題から、遺伝子や宇宙物理といった専門性の高い内容まで、多岐にわたる。

科学技術振興機構のサイエンスカフェカレンダー (<http://scienceportal.jp/scicafe/>) に寄せられる開催情報は現在、月70~130件。「参加費500円、1ドリンク付き」といった形式が多いという。

科学者と市民が対等な立場で直接対話する「サイエンスカフェ」は、2004年に始まった科学カフェ京都が国内第一号とされる。創設者の佐賀大名誉教授伊藤栄一の脳裏には、1960~70年代に2度留学した歐州

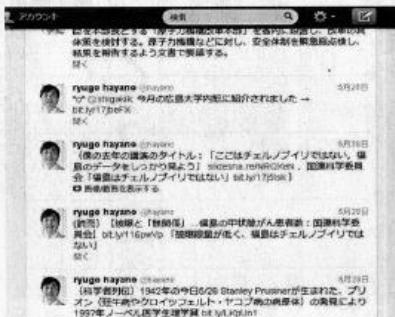
「科学をもう使うのが一番いいですか」「それがわからなければ私が使いたいですね」
京都大北部キャンパス(京都市)のセミナーハウスに笑い声が響く。女性からの質問で、大阪大准教授の田中沙織(36)が軽妙に答えた。

科学者を招き、研究などについてざっくりと聞く「科学カフェ京都」。5月11日の会では、脳科学を専門とする田中が話題提供役を務めた。1時間余り田中が話した後、参加者約40人は約1時間半、質問をぶつけたり、自身の意見を披露したりした。紙コップ入りのコーヒーと紅茶を片手に、くつろいだ雰囲気の中、脳研究をめぐる談話が途切れることなく続いた。

「思考を鍛える

科学者と市民が対等な立場で直接対話する「サイエンスカフェ」は、2004年に始まった科学カフェ京都が国内第一号とされる。創設者の佐賀大名誉教授伊藤栄一の脳裏には、1960~70年代に2度留学した歐州

新メディアで社会とコミュニケーション



野野教授の最近のツイート(つぶやき)。福島第一原発事故以来、被曝などの問題について発信し続ける

技術革新 市民の

「実験が失敗して多額の研究費が無駄にならうとする」「この技術は何に使えるのか」

「日本人はこうした論理的思考が鍛えられていない」

東京大教授の早野龍五(61)は簡易投稿サイト「ツイッター」で、2011年3月に起きた東京電力福島第一原発事故に関する発信を続けている。

物理学者で原子力専門家ではなかつたが、事故発生から

「第三部 安全と安心はまさ」と「脳をもう使うのが一番いいですか」「それがわからなければ私が使いたいですね」

③

合同原子核研究機関の光景があつた。

■即時のメリット

間もなく、各地で観測された放射線量を独自にグラフ化したり、放射性物質に関するクイズを記したりしながら市民にわかりやすい形で原子力災害の実像を浮かび上がらせようとしてきた。

「物理学で確実に言える」とはある。それを発信した。閲覧者は、事故前の2500人から、わずか数日で15万人に増えた。一連の「つぶやき」をきっかけに、学校給食の放射線量や住民の内部被曝の測定にも取り組むようになった。

専門家が即座に発信できるツイッターなどのネットメディアで、いつでもソーシャルメディアでも、積極的に関わるのは、いわゆる科学好きだけ。もっと層を広げれば、市民が大きな役割を果たせる。科学コミュニケーションを専門とする滋賀大講師、加納圭(33)は、「こうした視点で研究する」。

「カフェでもソーシャルメディアでも、被災者は様々な悩みを抱えている。科学的な正論は大事だが、相手に寄り添う気持ちを忘れてはいけない」

■幅を広げるには

視点不可欠

「関心はある」と

「無関心」は13%

だった。ただし、

したのは5%で、

トで約4200人を対象に行なったアンケート調査では、科学に興味がある「関心がある」と答えたものの、再生医療といった特定のテーマには興味がある

という「潜在的」に関心がある」も35%あった。

国が近くまとめる「科学技術イノベーション総合戦略」では、研究と産業を密接に連携させ、社会を変える技術革新を目指す。そのためには、科学技術の利用者である市民の視点が欠かせない。

潜意識的に科学に関心を持つ層を掘り起こし、さらには無関心層も呼び込んで、科学技術政策に市民の声を反映させるには

関心の度合いが異なる市民を集め、そのため会合を開き、そこでの議論から政策案を練る手法を、政策担当者らに示すことがあります。幅広い市民の参加を促すのに必要な要素の分析を進めている。

科学技術の重要性が高まり、科学の関与が求められる今、市

(敬称略)